

下関の芸術・文化

海峡にきらめく芸術・文化の光

岡市民文化課(☎231-1830)

芸術の秋恒例の市芸術文化祭。平成26年度は、美術部門に423点、文芸部門に217点の出品がありました。市芸術文化祭の各部門入賞者と、芸術文化振興奨励賞の受賞者を紹介します。

下関市芸術文化祭美術・文芸部門受賞者

各部門の入賞者(敬称略)を紹介します。

※各賞の内訳 ①市長賞、②市議会議長賞、③教育長賞、④市文化協会長賞、⑤菊川文化協会長賞、⑥豊田文化協会長賞、⑦豊浦文化協会長賞、⑧豊北文化協会長賞、⑨文化連合会長賞

大賞 工芸 中村 一姫

〔舟形画研〕

舟形のシンメトリーな形、底のわずかに浮いた姿、一切の無駄を省いた形には心を研ぎすますものを感じます。



●美術部門

大賞 工芸 中村 一姫

第1部

- ①洋画 石井 直美
- ②洋画 渡辺 景子
- ③洋画 井上 博富
- ④洋画 鬼頭 征一
- ⑤洋画 松本 明子

第2部

- ①書 末光 ハマ子(旦空)
- ②書 江本 多佳子(和泉)
- ③書 佐々木 美代子(桂扇)
- ⑦書 岡林 ヒサ子(清風)

第3部

- ①写真 富山 幸恵
- ②工芸 加藤 邦彦
- ③写真 津志 佳秀
- ⑥写真 植田 三男
- ⑧工芸 片山 瑠璃子



▲市長賞 洋画 石井 直美〔うつろいゆく時〕

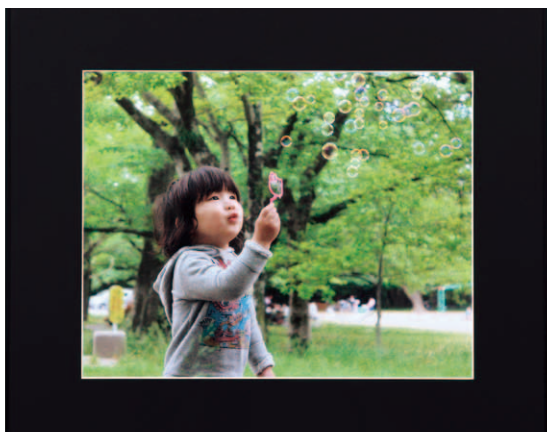
とび抜けた写実力が圧倒的な迫力を持っています。水の透明感や水面に映えた光のきらめきなど、形を持たないものに心ひかれた作者の想いと表現力とが見事に一致した作品となっています。

▶市長賞 書 末光 ハマ子(旦空) 〔王維詩〕

書は、白と黒が織りなす瞬間の芸術であり、線の芸術だと言われます。今回の作品は線の充実感と余白の効いた明るいつ品となっています。



▶市長賞 写真 富山 幸恵 〔無心に〕



子どもとシャボン玉という、誰もが思い当たる日常の風景ですが、その中に何かしみじみとした懐かしい癒しのような空間があり、ホッとさせられる作品となっています。

●文芸部門

大賞 短歌 大井 文子

ふふふと咲く鳳仙花朱の花は
見つむるわれにはほえみくるる

大賞は、花と人との心の交歓が
リズムカルに明るく詠まれた楽し
い作品です。

①俳句 高田 民子

天高しフェリーつぎつぎ車体吐く

②俳句 田村 晋

天領の街をあげての飾雛

③短歌 福田 かつ子

音もなく降りし狐の嫁入りに
泥のにはひが生臭く立つ

⑨俳句 岡本 恒子

戦知る人の減りゆく終戦日

小・中学生川柳

優秀賞

山本 ひなた

角倉小学校5年

青い海友と遊んで日焼けする

藤坂 昂星

角倉小学校5年

魚たち海の中から月を見る

福田 滉介

角倉小学校5年

風まかせヨットに乗って海の旅

芸術文化振興奨励賞 受賞者インタビュー

芸術文化振興奨励賞とは、
芸術文化の分野で高い水準の
創作活動を続けている市内在
住の将来性ある個人、団体に
授与するもので、今年度は3
人の方が選ばれました。

●音楽部門

合唱指導

永島 和子さん

大学の特別音楽課程で声楽
を学び、卒業後に小学校の教
員となりました。地元下関に
赴任した際に、合唱の指導を



●芸能部門 舞踊

花柳あや舞さん

(渡邊 雅江さん)

母である花柳三吉師匠の指
導のもと、2歳から舞踊の稽
古を始めました。

現在は、AYAKOモダ
ン・バレエスタジオの代表と
して、バレエと日本舞踊の融
合作品の振り付けやソプラノ、
ギターとの融合など、さまざ
まなジャンルの曲の振付や創

するようになりました。合唱
部がない学校では一から合唱
部を作り、コツコツと練習を
重ね、地域に子どもたちの歌
声を広げてきました。自分自
身、声帯を傷めてしまい歌声
が出にくくなりましたが、子
どもたちの優しい歌声を一人
でも多くの人たちに届けたい
という気持ちで合唱部の指導
に取り組んでいます。
これからも多くの方々の子
どもたちの優しい歌声を届け
ていきたいです。

作活動、若手育成のために指
導を行っています。指導では、
基本的な部分である言葉遣い
やあいさつ、行儀を身につけ
ることを大切にしています。
今後も、新しい作品を生み
出して、皆さんに本物の舞踊
を見せ、そこで味わえる感動
と感激を伝えていきたいです。



●美術部門 書道

内田 一成さん

幼少の頃に書道を始め、本
格的に始めたのは、大学に

入ってからのことです。卒業
後は、大分県で高校教師とし
て書道を教えていました。現
在は高齢者福祉施設に勤務し
ながら、書道の楽しさ、素晴
らしさを伝えていきます。書道
は何歳からでも始めることが
でき、生涯通してできるもの
です。

下関には、たくさん良いも
のがあり、いろんな文化があ
ります。私は、書道をさまざま
な世代に伝えていきたいと
思うとともに、書道を通じて
人生の豊かさを伝えていきたく
と思っています。

